



静岡県立三ヶ日青年の家 海洋活動のご案内をご視聴頂き、ありがとうございます。
この動画は、皆様に三ヶ日青年の家と、その海洋活動を知っていただき、より効果的に、より安全に
活動を実施していただくよう、活動の紹介をまいります。

静岡県立三ヶ日青年の家は

来て！見て！やって！感動を！！をテーマに

○宿泊研修の受入・研修指導

○青少年の育成を目的とした主催事業の企画・実施
の実施を通じて、

【協働】

宿泊体験を通じ**自主性、積極性、協調性**の向上を図ります

【共生】

体験活動を通じ環境への関心を高め**健やかな心身**を育てます

【友愛・奉仕】

他者との**交流**を通じた**豊かな人間性や社会性**を育みます

静岡県立三ヶ日青年の家



開所：昭和36（1961）年5月27日
〒431-1402
静岡県浜松市北区三ヶ日町都筑523-1
TEL：053-526-7156
FAX：053-526-0665
URL：<http://mikkabi-mfp.jp/>

【施設一覧】

宿泊室・ログハウス5棟（定員計200名）
男女各浴場・食堂
体育館・研修室4室・海洋活動施設
キャンプファイヤーサイト
まるたの森・芝生広場

ほか

静岡県立三ヶ日青年の家は、浜松市北区三ヶ日町の浜名湖畔にあり、
青少年の宿泊研修等の受け入れ、及び宿泊体験事業等の企画・実施を通じ、
青少年の自主性、積極性、協調性の向上、
健全な心身の育成、
青少年の交流を通じた豊かな人間性と社会性の涵養
に努める施設です。

仲間と寝食を共にし、規則正しい生活を過ごしつつ、多様な体験な活動に触れるなかで、自主性、協調性、積極性、健やかな心身、豊かな人間性と社会性を養います。

【宿泊体験】



【主な活動プログラム】

海洋活動



ハイキング・ウォークラリー



キャンプファイヤー



創作活動（クラフト）



利用者の皆様は、仲間と寝食を共にし、また、多様な体験活動に触れ、様々なことを学んでいきます。主な体験活動のプログラムとしては、海洋活動や、ハイキング、ウォークラリー、キャンプファイヤーやキャンドルセレモニー創作活動など、自然豊かな環境をいかした様々なプログラムを提供しています。

この動画は、

- 三ヶ日青年の家での海洋活動の実施を予定している団体の引率者
- 青少年の海洋活動に関心をお持ちの方

を対象に、海洋活動をより知っていただき、より効果的に、より安全に活動を実施していただくよう、以下の内容をお届けします。

- ① 静岡県立三ヶ日青年の家における **海洋活動とは**
- ② 海洋活動の **意義**
- ③ 海洋活動における **安全管理**

この動画は、三ヶ日青年の家での海洋活動の実施を予定している団体の引率者及び青少年の海洋活動に関心をお持ちの方を対象に、活動を知っていただき、より効果的に、より安全に活動を実施していただくよう、

- ・静岡県立三ヶ日青年の家の海洋活動とはどのようなものか
- ・活動を行うことで得られる経験や、学習効果などの意義
- ・活動を安全に行うための準備や体制のご紹介

の主に3点についてご案内してまいります。



まずはじめに、海洋活動を簡単にご案内します。
三ヶ日青年の家の海洋活動では、集団で船を漕ぐ、2種類の船でのプログラムを提供しています。

三ヶ日青年の家の海洋活動は、「カッター」、「ダブルハルカヌー」の特徴の異なる2種類の船のいずれかの漕艇活動となります。それぞれの船の特徴をご案内します。

カッター

古い歴史を持ち、愛用される船です。
重さのあるオールを、仲間と協力し、息を併せて漕ぎ、困難を克服することで、感動を共有する体験に繋がります。

乗船人数：絆艇・希望艇（9m艇） 各30名

（研修生28人 団体引率者1名 艇長（所員）1名）

（全4艇） 浜太郎艇・浜三郎艇（7m艇）各20人

（研修生18人 団体引率者1名 艇長（所員）1名）

対象年齢：小学4年生以上

※ただし、小学5年生以上の漕ぎ手が過半数以上となること。



まず、一つ目の船として「カッター」。

古くより愛用されてきた歴史ある船で、活動を通じ、重さのあるオールを、仲間と協力し、

息を併せて漕ぎ、協力して困難を克服することで、感動を共有する体験に繋がります。

カッターは主に、小学校高学年以上の方からチャレンジすることができます。



カッターの漕艇の様子を見てみましょう。
これは、青年の家のハーバーを出発したばかりの映像です。
研修生の皆さんは、予想外に重たいオールを、息を併せて漕ぐことの難しさに
直面します。
まだ、皆さんの息が合っていない様子がうかがえます。



しかし、漕ぎ出すうちに、仲間の気持ちが一つになっていきます。
だいぶきれいに漕げるようになってきましたね。
オールがそろい、早く船が進んでいます。

三ヶ日青年の家の海洋活動は、「カッター」、「ダブルハルカヌー」の特徴の異なる2種類の船のいずれかの漕艇活動となります。それぞれの船の特徴をご案内します。

ダブル ハル カヌー

(2つの) (船体の)

誰もが漕艇体験を楽しめるよう開発された三ヶ日青年の家
にしかない船です。

3歳以上の幼児、小学校低学年や
特別支援学校等幅広く利用頂けます。

乗船人数：各12名（全4艇）

（研修生10名 団体引率者1名 艇長（所員1名）

対象年齢：3歳以上

※小学生未満の場合、1名毎に、成人が
乗船し、補助する。



次にダブルハルカヌーを紹介します。

ダブルハルカヌーは、誰もが漕艇体験を楽しめるよう開発された三ヶ日青年の家オリジナルの船です。

3歳以上の幼児、小学校低学年や特別支援学校等幅広く利用頂けます。



ダブルハルカヌーは、ハーバーより、車いすの方など、肢体不自由な方でも、所員及び団体引率者の方の補助により、乗船することが可能です。

軽量のオールのため、カッターに比較し、体力のない低年齢層でも操船が可能です。



特別支援学校等でのご利用事例に備え、肢体不自由な方でも団体引率者の方、及び所員の補助により、乗船が可能です。また、カッターに比べ、オールはひとりで操れる軽量なものであり、低年齢層でも操船が可能です。

船の定員について

カッター

艇名	規格	定員			合計
		研修生	乗船指導者	所員(艇長)	
絆	9m	28	1	1	30
希望	9m	28	1	1	30
浜太郎	7m	18	1	1	20
浜三朗	7m	18	1	1	20
		92	4	4	100

ダブルハルカヌー

艇名	定員			
	研修生	乗船指導者	所員(艇長)	合計
1号艇	10	1	1	12
2号艇	10	1	1	12
3号艇	10	1	1	12
4号艇	10	1	1	12
	40	1	4	48

湖岸観察



カッター、ダブルハルカヌーの定員を、表にまとめました。
ご覧のとおり、カッター、ダブルハルカヌーそれぞれ4艇あり、
カッターでの海洋活動を行う場合、約90名
ダブルハルカヌーでの海洋活動を行う場合40名の方が
同時に活動を行うことができます。
研修生の数が多い場合は、前半組と後半組に分かれ、
湖岸観察などの自然にふれる体験活動と併行して行う
などのプログラム構成での実施も可能です。



次に、三ヶ日青年の家で海洋活動を行うことで
得られる体験、教育的な意義をご案内します。



三ヶ日青年の家での海洋活動は

、雄大な浜名湖に船で繰り出し、自然に親しみ、触れることで、自然への興味関心を促します。

また、仲間とともに協力して湖へ漕ぎ出す体験は、協力することの大切さ、楽しさを学ぶことに繋がります。

足元の不安定な船の上に足を踏み入れ、思うように進まない船を漕ぎ出す中で、自然の厳しさを知ることは、命の大切さと身を守ることの大切さを学ぶきっかけとなることでしょう。



③ 海洋活動における安全管理

ここで、海洋活動におけるヒヤリハット事例と、安全管理体制について、ご案内していきます。

湖や海など水辺の活動では、毎年悲しい事故が絶えません。

それだけに、携わる青年の家の所員や、引率される学校、青少年団体等の引率者の皆様それぞれが、

細心の注意をもって、連携し、活動に取り組んでいく必要があります。

【想定されるリスク】

高波、強風等悪条件

乗船者の体調不良、熱中症

地震、津波、落雷等
の自然災害

乗船者の落水

【主な安全管理対策】

- **団体、青年の家それぞれの役割分担の明確化**
- 操船スキルの向上を目的とした訓練、研修の実施
- 乗船者情報の正確な把握、体調管理、水分補給等
- 気象条件等別に定めた実施基準の設定
- 安全指導（落水時対処「ういてまて」）

など



三ヶ日青年の家で海洋活動を実施するにあたって、様々なリスクが想定されます。ヒヤリハット事例を避けるため、日頃より、三ヶ日青年の家では

これら様々な安全管理体制を整えています、

赤字で標記しているように、利用団体引率者と青年の家所員が役割を明確にし、連携することがなによりも大切です。

【活動日までに求められる安全対策】

○引率者の
「海洋活動指導者研修会」への参加 (必須)

【研修会に参加する方】

- ・カッターの場合
- ・乗船して指導する全引率者
- ・ダブルハルカヌーの場合
- ・乗船して指導する引率者1名



○事前打合せの実施

○活動実施体制の検討・準備

- ・参加者の身体的条件や年齢を考慮した活動内容や時間の設定
- ・活動に必要な引率者の人員確保
- ・緊急事態に備えた引率者の役割分担の設定、対応手順の把握検討
- ・飲料水の発注（熱中症対策のため）



ここからは、団体、青年の家それぞれが担う、海洋活動における安全管理体制をご案内します。

海洋活動の実施にあたっては、活動日までの事前の準備も、当日の体制に劣らず、重要なものと考えています。

団体の皆様には、

活動に携わる引率者の皆様の「海洋活動指導者研修会」へのご参加、

活動内容の詳細、計画についての事前打合せ、

皆さんの体力や年齢を考慮した活動内容や時間の検討、指導体制の確保、緊急時体制の検討などの実施体制の検討に加え、

【活動日までに青年の家が行う安全対策】

【利用団体への研修支援】

- 「海洋活動指導者研修会」の開催
- 実施団体への海洋活動プログラム
緊急時体制等の説明・助言



【体制整備】

- 海洋指導マニュアルの整備・見直し
- 定期訓練・研修への参加等
- 地域関係者との連携による
セーフティネットの構築



三ヶ日青年の家所員は、活動の実施に先立ち、各団体の研修活動の支援のため、海洋活動指導者研修会や、事前打合せ、その他電話等様々な形で、活動の実施に係るアドバイスを行っています。

また、指導マニュアルの見直し、定期的な海洋活動訓練、研修への参加等を通じ、指導スキルの向上に努めるとともに、地域関係者との連携を深め、セーフティネットの構築に努めています。

【入所後、活動実施までに求められる安全対策】

団体

○実施概要（乗船者・指導体制など）を青年の家と最終確認

○青年の家と実施可否の協議

【協議内容】

- ・気象状況、湖面の状況等の情報共有
- ・活動実施概ね30分前及び実施直前における実施判断
- ・注意事項、変更点等の確認



○指導・緊急時体制の再確認

【入所後、活動実施までに青年の家が行う安全対策】

青年の家

○所内にて実施概要（乗船者情報、指導体制、活動内容）等の情報把握・共有

○活動実施または中止判断のための気象状況の実査・調査



つづいて、三ヶ日青年の家に入所し、活動を実施するまでのことについてです。

三ヶ日青年の家にご入所頂き、活動を実施するまでの間に、団体、三ヶ日青年の家双方で、乗船者、緊急時の体制などに変更がないか、確認し、万が一にも乗船者や体制が実際と異なることのないよう配慮します。

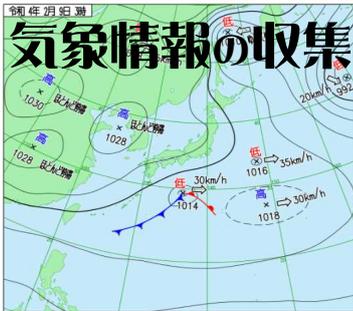
また、皆さんの健康状態、最新の気象条件などをもとに、三ヶ日青年の家、団体双方での実施判断についての協議を実施し、最終的な実施の可否を決定します。

最後に、実施に先立ち、団体における指導時、緊急時の体制について、最終確認をお願いいたします。

三ヶ日青年の家では、学校との打ち合わせを踏まえた実施概要を、全所員で共有し、活動に備えるとともに、気象状況等活動の安全な実施に必要な情報を収集します。

【活動実施（中止）基準】

気象情報の収集、現地調査の実施により得た情報から活動の安全な実施が困難と判断した場合、活動を中止します。



【気象情報等の収集】

○浜松市南部の

大雨・暴風・強風・高潮・濃霧・雷など**気象警報・注意報**を情報収集し、それぞれごとに、発表されている場合の中止基準を定めています。

【現地調査】

現地で調査を実施し、気温、風速、波の高さ等安全な活動が行えないと判断される時、観天望気による天候の急変が予見される時、協議の上、活動を中止。



実施可否の協議にあたっては、あらかじめ、三ヶ日青年の家では、気象条件等に応じた実施基準を細かく定めています。

気象庁の天気予報、警報、注意報などの気象情報を収集するとともに、当日、現地でも、天候、気温・水温、風速、波の状況などを調査し、危険が予測される場合は、活動の中止が必要な場合があります。

【活動中、学校に求められる安全対策】

団体

- 団体の責任者はマリーナに待機。
- 乗船前に、全員ライフジャケットがしっかり着用できているかチェック。
- 乗船する引率者は、参加者の人数と健康状態を常に把握するとともに、操船指導、水分補給の指導等を乗船する青年の家所員と協力して行う。



全乗船者は必ず
ライフジャケットを着用。
(青年の家にて貸与)



活動が始まり、参加者の皆さんが湖に漕ぎ出すにあたり、引率者の皆さんは、

マリーナに引率責任者が待機し、緊急時の備えをお願いします。

また、乗船する引率者の方は、所員にご協力いただき、全ての乗船者がしっかりライフジャケットを着用できているか確認をお願いします。

乗船中も、青年の家所員に協力頂き、参加者の皆さんの健康管理、操船、水分補給の指導などに協力をお願いします。

【活動中に青年の家が行う安全対策】

青年の家

○乗船者全員に操船指導及び落水時の姿勢等の指導（ういてまで）を行う。

○海洋活動に携わる所員は、以下の役割を担う。

- ・ マリーナにて、実施状況の全体把握、緊急時への備え
- ・ 各艇における操船及び乗船者指導
- ・ 緊急時に備え、動力船による救助、監視のための随行



操船方法（オールの扱い方）や掛け声、
落水時の対応を事前指導



艇長が操船指導



監視艇・救助艇の
2艇が随行

三ヶ日青年の家所員は、実施に先立ち、安全な操船となるよう、全乗船者に乗船前に、オールの扱い方や万が一落水したときの対応などを指導します。

乗船後は、所員が分担し、マリーナに待機しての全体の監督、それぞれの船の艇長、緊急時の監視や救助のための動力船のクルー等の役割を担い、それぞれの立場から、安全な活動の実施に努めます。

【活動終了時、団体に求められる安全対策】

団体

全乗船者の下船と安全を確認

- 人員点呼を行い、児童生徒の安全確認、健康状態、けが等の有無の確認。



【活動終了後、青年の家が行う安全対策】

青年の家

- すべての乗船者の下船と安全を確認
- 活動全体の振り返りを全指導員にて実施。
- 活動記録を作成し、所長に報告。



活動後も、すべての乗船者の皆さんが安全に下船できたことを確認するため、人員点呼と健康状態の確認を行います。

乗船指導者となる引率者の皆様におかれましては、全員が無事下船したことをしっかり確認いただくようお願いします。

なお、青年の家所員は、活動終了ごとに、振り返りを実施し、実施記録を適切に保管しつつ、さらなるスキルの向上と安全管理体制の構築に努めます。

最後に

海洋活動は、大自然との邂逅、仲間との協力など、青少年の健全な育成に不可欠な、大切な“気づき”の宝庫です。

その活動の安全実施には、青年の家、団体の**連携**による安全管理体制が不可欠です。

何卒ご理解頂くとともに、多くの青少年が海洋活動に触れて頂くきっかけになれば幸いです。



最後までご視聴頂きありがとうございました。

海・川では、毎年、水難事故等、悲しい事故が絶えません。

三ヶ日青年の家でも、平成22年に発生したカッターボート転覆事故という痛ましい事故がありました。

私たち、三ヶ日青年の家所員は、このことを教訓とし、日々、安全体制の構築に尽力しています。

しかしながら、活動をより安全に行うためには、青年の家所員のみならず、団体の引率者の皆様との連携は欠かせません。

何卒、皆様が安全に、海洋活動の素晴らしさに触れ、多くを学んでいただけるよう、ご協力をお願いいたします。